

和歌山県の子どもたちの状況

調査概要

調査日 平成20年4月22日(火) 対象 中学校3年生
 調査内容 ① 教科に関する調査(国語、数学) A:主として「知識」に関する問題 B:主として「活用」に関する問題
 ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

国語、数学の状況

和歌山県(公立)の平均正答率と全国(公立)の平均正答率との比較

	国語A (知識)	国語B (活用)	数学A (知識)	数学B (活用)
和歌山県	71.9	57.0	64.3	48.8
全国	73.6	60.8	63.1	49.2
差	-1.7	-3.8	+1.2	-0.4

国語、「活用」に関する問題に課題があります。

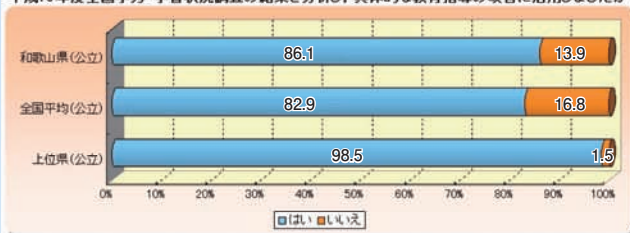
数学Aにおいて、全国の平均正答率を1.2%上回っていますが、他では下回っています。数学に比べて国語において、「知識」に関する問題に比べて「活用」に関する問題において、それぞれの平均正答率が、全国の平均正答率に比べて低い傾向にあります。

学力向上に関して・・・

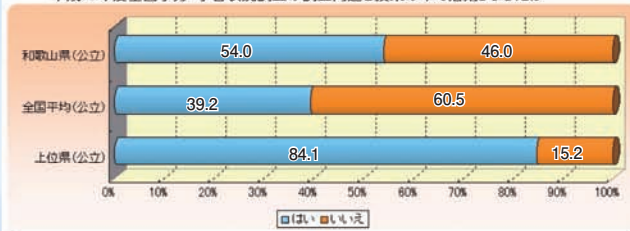
学校質問紙と生徒質問紙調査の結果からみえることは

★学校では

平成19年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用しましたか



平成19年度全国学力・学習状況調査の調査問題を授業の中で活用しましたか

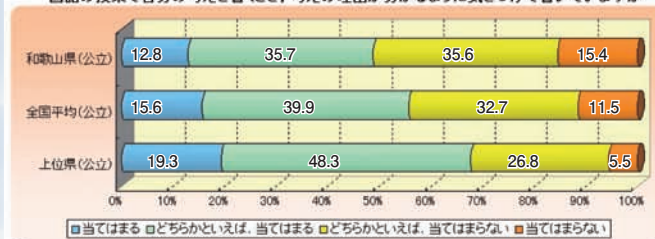


多くの学校で、調査結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用しています。また、約半数の学校で、前年度の調査問題を授業の中で活用しています。

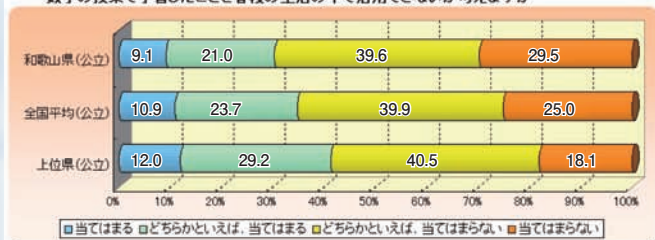
学校質問紙は95項目、生徒質問紙は75項目の質問事項があります。和歌山県全体の詳しい結果は <http://www.nier.go.jp/08chousakekka/index.htm> をご覧ください。

★生徒たちは

国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか



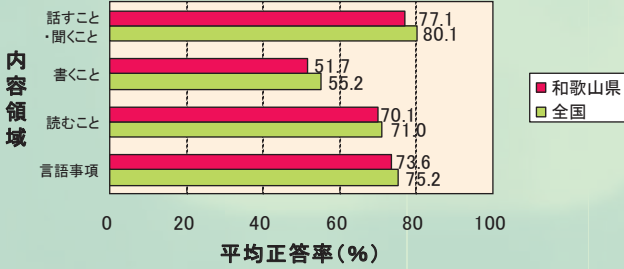
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



授業で自分の考えを話したり書いたりする場面や、学習内容を普段の生活で活用しようとする場面における生徒の意識が、全国と比べてやや低い傾向にあります。

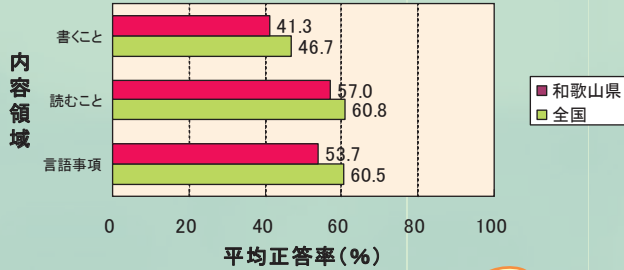
平成20年度全国学力・学習状況調査

国語A(知識に関する問題)



平成20年度全国学力・学習状況調査

国語B(活用に関する問題)



平成20年度全国学力・学習状況調査
国語Bの問題から

「書くこと」「読むこと」に課題があります。

三中西さんのレポートを読みながら、南さんと原さんは、「然」の使い方について次のように話しています。

南 私は「全然明るい」という言い方をしてもいいと思う。

原 私は「全然明るい」という言い方はいいかと思う。

あなたは、南さん、原さんのどちらの考えを賛成しますか、どちらか一人を選び、あなたが選んだ人の名前を、解答题に書かれています。書き出した文の□に書きます。その上で、あなたがよほど考える理由を、次の条件①から条件③の中から一つか二つ書き添えます。なお、読み直しや文章を直したいときは、二枚や頭より行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件① レポートにある国語辞典の記述やグラフの内容を根拠として書くこと。

条件② 根拠とした国語辞典の記述やグラフの内容を具体的に挙げて書くこと。

条件③ 「なぜなら」に続けて、七十文字以上、百文字以内で書くこと。(解答题に書かれている書き出しの文字数を食みます)

解答の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答题に書き添えます。

すはなせなら、さんの考えに賛成します

概ね良好です！

- インタビューの展開を考えて、適切な質問をする。
- 文脈に即して漢字を正しく読む。
- 文のまとまりをつかんで古文を読んだり、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む。

課題があります！

- 論理の展開に着目し、評価・批評する。
- 資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書く。
- 表現に注意しながら文章を読み、読み取った内容を条件に合った表現に直して書く。
- 読み取った情報を根拠として示しながら、自分の立場を明確にして意見を書く。

学校でのアプローチ

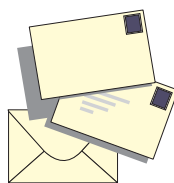
- 日常の言語活動・読書生活の充実を図りましょう。
- 自分の考えや意見を、書いたり話したりする学習活動を充実させましょう。
- 発問の工夫を！
- 話し合い活動の充実を！
- 学習形態の工夫を！
- 豊かで、確かなことばの力を高めましょう
- すべての教科等、学校全体で国語力の向上に取り組みましょう。

家庭や地域社会でのアプローチ

子どものことばの力を高めるためには、「読む」機会や「聞く」機会を増やし、書き手や話し手の意図を理解したうえで、自分の考えを書いたり話したりすることが大切です。家庭や地域社会においては、子どもの生活に関心を持ち、読んだことや聞いたことをもとに子どもと会話する機会を多く持ちましょう。



様々な本や新聞、説明書やイラスト等の資料をたくさん読みましょう。



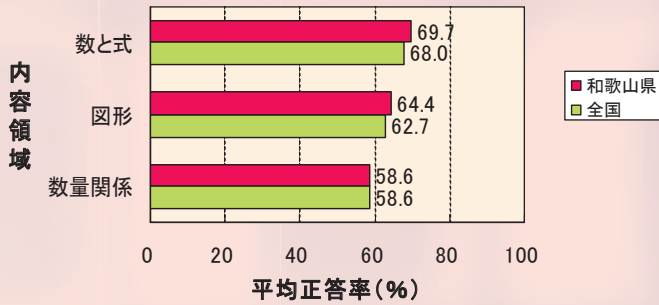
日記や手紙などを書いたり、家族や地域の人と挨拶したり話したりしましょう。



書く習慣 読む習慣が重要！

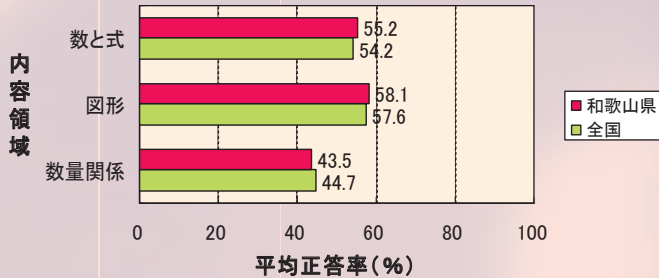
平成20年度全国学力・学習状況調査

数学A(知識に関する問題)



平成20年度全国学力・学習状況調査

数学B(活用に関する問題)



全国と比較してよいところ

- 数学A・Bともに、「数と式」「図形」の内容領域において、県平均正答率が全国平均正答率を上回っています。
- 数学Aでは、県正答率が全国正答率を上回る問題が多くあります。
 - ・対称な図形を完成する問題
 - ・数量の関係が比例になるものを選ぶ問題 など

課題があります

- 数学Bでは、県正答率が全国正答率を下回る問題が多くあります。
 - ・数量の関係を的確にとらえ考察する問題
 - ・事象を式の意味に即して解釈する問題 など
- 数学Bでは、県無解答率が全国無解答率を上回る問題がほとんどです。
 - ・問題解決の方法を数学的に説明する問題
 - ・発展的に考え予想した事柄を説明する問題 など

知識や技能を活用できていますか？

数学的な知識や技能を身に付けることは、もちろん大切です。

しかし、それらを身に付けるだけでなく、日常生活の様々な場面で活用できるかどうか重要なのではないのでしょうか。

活用することができてこそ、数学のよさや楽しさを実感することができるのです。

じっくり問題に取り組んでいますか？

長く複雑な問題や説明、証明などの記述問題になると、無解答率が高くなります。

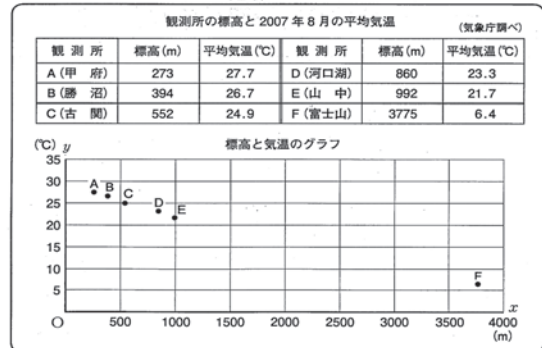
長く複雑な問題では、必要な情報を取り出し、分類・整理することが大切です。

また、課題解決のためには、見通しをもち、筋道を立てて考える必要があります。

じっくり問題に取り組む機会をつくり、自分の考えを数学的な表現を用いてまとめたり、説明し伝え合ったりする活動を多く取り入れましょう。

平成20年度全国学力・学習状況調査 数学Bの問題から

- 5 (3) 里奈さんは、富士山周辺と山頂の8月の平均気温を調べました。そして、下の表のようにまとめ、高さ(標高) x mのときの気温を y °Cとして、グラフに表しました。



里奈さんは、「高さが高くなるのともなって、気温が一定の割合で下がる」ことをもとに、表やグラフのDとFのデータを用いて、6合目のおよその気温を求めることにしました。
このとき、6合目(2500m)のおよその気温を求める方法を説明しなさい。ただし、実際に気温を求める必要はありません。

県正答率 11.0% 県無解答率 65.5%

なんと、約3人に2人が無解答



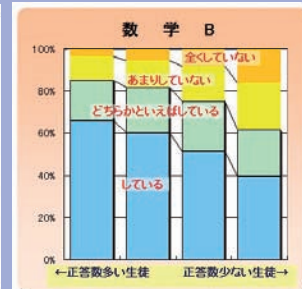
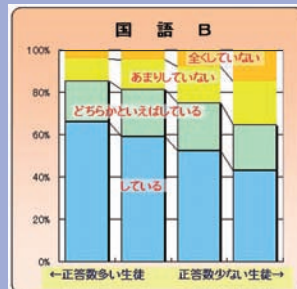
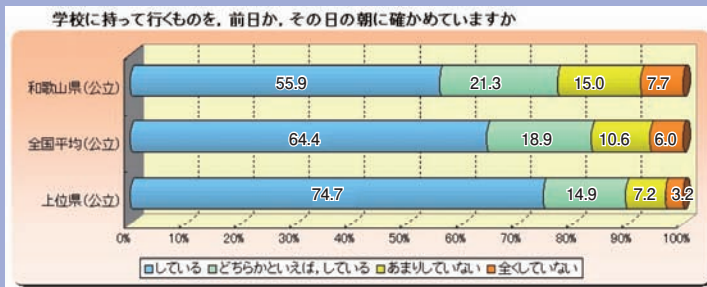
問題文が長くて
何が書かれているのかよく分からないよ～

説明ってどう書けばいいのかなあ



教科と生徒質問紙結果をクロス分析してみると...

見えてきませんか？「学力」と「生活」の深い関係！



より良い生活習慣の確立を！

全国平均と比べると、「している」と回答している生徒が少ない傾向にあります。

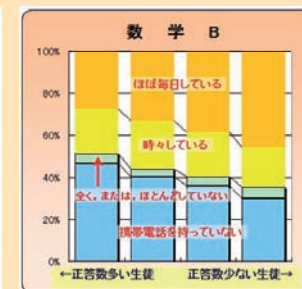
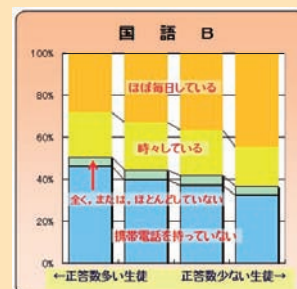
この項目の他に、朝食をきちんと食べることや、早寝早起きの習慣など、生活習慣を整えることが、学力と深く関係していることが確かめられています。

学習習慣を見直しましょう！

学校の授業時間以外の勉強時間は、全国平均とほとんど差がありません。しかし、休日の学習時間や読書時間はやや短く、テレビを見たりゲームをしたりする時間がやや長い傾向にあります。

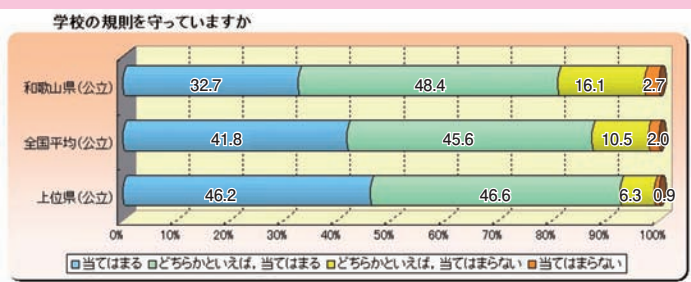
和歌山県の中学生の携帯電話の利用状況は、全国平均とほとんど差がありません。

学力調査結果との関連では、すべての教科において正答数が多い生徒ほど、「全く、または、ほとんどしていない」「携帯電話を持っていない」と回答している割合が高くなっています。



携帯電話、ほんとうに必要ですか？

「携帯電話で通話やメールをしていますか」への回答と学力調査結果の関係



全国平均と比べると、「あてはまる」と回答している生徒が少ない傾向にあります。

この項目の他に、きちんと挨拶ができること、約束を守るなど、社会の一員として規範意識を高めることも大切です。

学力調査結果との関連では、すべての教科において正答数が多い生徒ほど、「あてはまる」と回答している割合が高くなっています。

学校・家庭・地域で規範意識を高めましょう！

今回の調査結果で測定できるのは、学校や生活のほんの一部です。ここにあげた事例が、どの子どもにも当てはまるとは限りません。しかし、子どもたちの学力の向上を図り、生活習慣をよりよくしていくための大切な手がかりがありそうです。なお、全国と和歌山県の詳しい調査結果をご覧になりたい方は、文部科学省の次のwebページにアクセスしてください。(http://www.nier.go.jp/08chousakekka/index.htm)